



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月7日

上場会社名 株式会社巴川製紙所 上場取引所 東
 コード番号 3878 URL <https://www.tomoegawa.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 善雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員CFO経営戦略 (氏名) 古谷 治正 TEL 054-256-4319
 本部長
 四半期報告書提出予定日 2020年8月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	7,051	△7.9	△438	—	△438	—	△645	—
2020年3月期第1四半期	7,658	△7.1	△26	—	△22	—	△97	—

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 △516百万円 (—%) 2020年3月期第1四半期 △347百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	△64.51	—
2020年3月期第1四半期	△9.64	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	42,660	11,883	20.0	850.15
2020年3月期	44,186	12,404	20.6	909.31

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 8,511百万円 2020年3月期 9,104百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 有
 配当予想の修正については、本日（2020年8月7日）公表いたしました「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	14,500	△6.8	△1,200	—	△1,100	—	△1,700	—	△169.79
通期	32,000	3.2	△900	—	△700	—	△1,600	—	△159.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	10,389,406株	2020年3月期	10,389,406株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	377,217株	2020年3月期	377,216株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	10,012,189株	2020年3月期1Q	10,122,959株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結会計期間は、既存製品の拡販活動に鋭意努めたことに加え、iCas関連新製品の市場投入が始まりつつあるものの、新型コロナウイルス感染症拡大に因る主要市場の経済活動停滞が、当社グループの業績に大きく影響を及ぼすこととなり、売上高は7,051百万円と前年同期比606百万円の減収（前年同期比7.9%減）となりました。

利益面では、大幅な経費削減効果に加え、昨年末に実施した抄紙製造設備の一部停機（4台のうち、1台の停機）による固定費削減効果などにより利益改善が進んだものの、販売減少による減益影響を打ち消すまでには至らず、営業損益は438百万円の損失（前年同期は26百万円の損失）となり、経常損益も438百万円の損失（前年同期は22百万円の損失）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益は、新型コロナウイルス感染症による通期業績への影響を見込んだ繰延税金資産の取崩しを行い645百万円の損失（前年同期は97百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、新製品創出の加速及び製販一体化に基づく収益管理能力強化と業務生産性の改善を目的とした2020年4月1日付の組織変更に伴い、報告セグメントを従来の「プラスチック材料加工事業」、「製紙・塗工紙関連事業」及び「セキュリティメディア事業」の3区分から、「トナー事業」、「電子材料事業」、「機能紙事業」、「セキュリティメディア事業」及び「新規開発事業」の5区分に変更しております。

また、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、組織変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

①トナー事業

欧米市場のロックダウン影響等による新型コロナウイルス影響を大きく受ける状況となりました。利益面では、大幅な経費削減効果により利益改善が進むものの、販売減少が大きく影響しました。

この結果、売上高は2,317百万円（前年同期比30.1%減）となり、セグメント（営業）損失は127百万円（前年同期は20百万円の利益）となりました。

②電子材料事業

関連部材が使われる業界への感染症拡大影響が見られたことから低調な販売になりました。

利益面では、大幅な経費削減効果により利益改善が進むものの、販売減少が大きく影響しました。

この結果、売上高は1,096百万円（前年同期比25.6%減）となり、セグメント（営業）損失は75百万円（前年同期は28百万円の利益）となりました。

③機能紙事業

既存事業の縮小が進む中で新型コロナウイルス感染症に伴い急速な市場環境変化も重なった中で、原価低減活動を進め大幅な経費削減効果により利益率の改善に努めました。併せて、前期に実施した抄紙製造設備の一部停機（4台のうち1台を停機）による固定費削減効果などにより利益改善が進むものの、販売減少が大きく影響しました。

この結果、売上高は2,373百万円（前年同期比16.7%減）となり、セグメント（営業）損失は215百万円（前年同期は98百万円の損失）となりました。

④セキュリティメディア事業

緊急事態宣言下の外出自粛などによりアミューズメントカードなどの販売が減少いたしました。

この結果、売上高は1,219百万円となり、セグメント（営業）利益は76百万円となりました。

⑤新規開発事業

主にiCas関連製品の開発と販売を進める中で、新製品上市が始まりつつあります。

この結果、売上高は12百万円となり、セグメント（営業）損失は104百万円となりました。

⑥その他の事業

売上高は32百万円（前年同期比46.4%増）となり、セグメント（営業）利益は7百万円（前年同期比47.7%減）となりました。

(参考) セグメントの概況

(単位:百万円 比率:%)

	売上高			セグメント利益		
	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減率	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	増減率
トナー事業	3,313	2,317	△30.1	20	△127	—
電子材料事業	1,474	1,096	△25.6	28	△75	—
機能紙事業	2,848	2,373	△16.7	△98	△215	—
セキュリティメディア事業	—	1,219	—	—	76	—
新規開発事業	—	12	—	—	△104	—
その他	21	32	46.4	14	7	△47.7
計	7,658	7,051	△7.9	△35	△438	—
調整額	—	—	—	8	0	—
四半期連結損益及び 包括利益計算書計上額	7,658	7,051	△7.9	△26	△438	—

(注) セグメント利益は営業利益に相当します。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は42,660百万円で、前連結会計年度末に比べ1,525百万円の減少となりました。流動資産は19,870百万円で、前連結会計年度末に比べ1,396百万円の減少となり、その主な要因は受取手形及び売掛金が減少したことなどによるものです。固定資産は22,789百万円で、前連結会計年度末に比べ129百万円の減少となり、その主な要因は設備投資により機械装置及び運搬具等が増加したものの、償却により固定資産が減少したことなどによるものです。

負債合計は30,777百万円で、前連結会計年度末に比べ1,004百万円の減少となりました。流動負債は20,117百万円で、前連結会計年度末に比べ163百万円の減少となり、その主な要因は支払手形及び買掛金、1年内返済予定の長期借入金が減少したものの、短期借入金が増加したことなどによるものです。固定負債は10,659百万円で、前連結会計年度末に比べ840百万円の減少となり、その主な要因は長期借入金の減少があったことなどによるものです。なお、当第1四半期連結会計期間末における有利子負債残高は19,154百万円と、前連結会計年度末に比べ269百万円の増加となりました。

また、純資産は11,883百万円で、前連結会計年度末に比べ521百万円の減少となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の業績見通しについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による需要予測等を合理的に算定することが困難なことから未定としておりましたが、第2四半期以降は緩やかながらも需要が回復を始めることを前提に、現時点で入手可能な情報をもとに算定を行っております。

トナー事業については、第2四半期会計期間(7月～9月)中も、新型コロナウイルス感染症拡大による海外市場における販売減少が続き、回復は第3四半期会計期間(10月～12月)にずれ込む見通しであります。一方、電子材料事業や機能紙事業においては、第2四半期会計期間(7月～9月)以降の需要回復を見込んでおります。

コスト面では、更なる経費削減施策を進める効果がある一方で、上半期で生産を停止する北米トナー工場でのリストラ費用や不要資産の処分損などが第2四半期会計期間(7月～9月)に営業費用(約200百万円)として発生する見込みであります。また、国内トナー事業及び機能紙事業における夏季休暇も含めた生産調整により生産益が減少する計画であります。これらに加え、セキュリティメディア事業での季節要因による収益悪化(約100百万円)が見込まれることから、第2四半期会計期間(7月～9月)の業績は、当第1四半期会計期間の業績と比べ増収減益となり、上半期の業績は、売上高14,500百万円、営業損失1,200百万円、経常損失1,100百万円、親会社株主に帰属する四半期純損益は北米トナー工場の減損損失(約400百万円)を特別損失に計上することなどから1,700百万円の損失を見込んでおります。

下半期の状況は、主要事業における需要回復が進むことに加え、iCas関連及び既存事業における新製品の市場投入を進めて販売増加を見込むものの、新型コロナウイルス感染症の影響が残り売上高は前年並みまでは戻らない見通しであります。

コスト面では、モノクロトナー事業構造改革(北米トナー工場でのトナー生産停止)による固定費圧縮を主とするコスト削減効果が下半期から加わることを織り込んでおります。

これらを踏まえて、売上高が上半期に比べて増収となり営業損益は黒字転換を見込むものの上半期の赤字を挽回出来ず、通期業績は売上高32,000百万円、営業損失900百万円、経常損失700百万円、親会社株主に帰属する当期純損失1,600百万円を予想しております。

なお、1株当たり配当見通しについては、前期末配当に続き2021年3月期も当期純損失の見通しであり、当面の資金繰り等を勘案し、可能な限り手許現金を厚く確保することが中長期的な株主に対する利益に資すると考え、無配を予定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,457	3,618
受取手形及び売掛金	7,529	6,174
製品	7,387	7,116
仕掛品	64	55
原材料及び貯蔵品	1,923	2,025
その他	927	902
貸倒引当金	△22	△20
流動資産合計	21,267	19,870
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,238	5,186
機械装置及び運搬具(純額)	4,356	4,267
土地	5,460	5,459
その他(純額)	2,697	2,649
有形固定資産合計	17,752	17,561
無形固定資産	554	527
投資その他の資産		
投資有価証券	4,127	4,281
その他	544	477
貸倒引当金	△59	△59
投資その他の資産合計	4,611	4,699
固定資産合計	22,919	22,789
資産合計	44,186	42,660
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,407	4,719
短期借入金	8,107	9,798
1年内返済予定の長期借入金	3,256	2,733
未払法人税等	189	24
賞与引当金	475	252
その他	2,844	2,589
流動負債合計	20,281	20,117
固定負債		
長期借入金	6,553	5,689
退職給付に係る負債	3,043	3,013
役員退職慰労引当金	290	270
その他	1,612	1,686
固定負債合計	11,500	10,659
負債合計	31,781	30,777

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,894	2,894
資本剰余金	2,690	2,690
利益剰余金	4,275	3,629
自己株式	△446	△446
株主資本合計	9,414	8,768
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	78	155
為替換算調整勘定	△380	△397
退職給付に係る調整累計額	△7	△14
その他の包括利益累計額合計	△310	△256
非支配株主持分	3,300	3,371
純資産合計	12,404	11,883
負債純資産合計	44,186	42,660

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	7,658	7,051
売上原価	6,329	6,113
売上総利益	1,329	938
販売費及び一般管理費	1,355	1,376
営業損失(△)	△26	△438
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	28	37
持分法による投資利益	32	18
その他	19	26
営業外収益合計	82	84
営業外費用		
支払利息	59	58
その他	18	26
営業外費用合計	78	84
経常損失(△)	△22	△438
特別利益		
固定資産売却益	25	0
特別利益合計	25	0
特別損失		
固定資産除却損	1	5
特別損失合計	1	5
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	1	△443
法人税、住民税及び事業税	26	13
法人税等調整額	38	124
法人税等合計	64	138
四半期純損失(△)	△62	△581
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△97	△645
非支配株主に帰属する四半期純利益	34	64
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△49	94
為替換算調整勘定	△203	△22
退職給付に係る調整額	△25	△6
持分法適用会社に対する持分相当額	△6	—
その他の包括利益合計	△284	65
四半期包括利益	△347	△516
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△320	△592
非支配株主に係る四半期包括利益	△27	76

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結財務諸 表 計上額 (注) 3
	トナー事 業	電子材料 事業	機能紙事 業	セキュリ ティメデ ィア事業	新規開発 事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,313	1,474	2,848	—	—	7,636	21	7,658	—	7,658
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	51	—	—	51	177	228	△228	—
計	3,313	1,474	2,899	—	—	7,687	198	7,886	△228	7,658
セグメント利益 又は損失(△)	20	28	△98	—	—	△49	14	△35	8	△26

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額8百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結財務諸 表 計上額 (注) 3
	トナー事 業	電子材料 事業	機能紙事 業	セキュリ ティメデ ィア事業	新規開発 事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	2,317	1,096	2,373	1,219	12	7,019	32	7,051	—	7,051
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	79	4	—	83	142	226	△226	—
計	2,317	1,096	2,452	1,223	12	7,103	175	7,278	△226	7,051
セグメント利益 又は損失(△)	△127	△75	△215	76	△104	△446	7	△438	0	△438

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額0百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、新製品創出の加速及び製販一体化に基づく収益管理力強化と業務生産性の改善を目的とした2020年4月1日付の組織変更に伴い、報告セグメントを従来の「プラスチック材料加工事業」、「製紙・塗工紙関連事業」及び「セキュリティメディア事業」の3区分から、「トナー事業」、「電子材料事業」、「機能紙事業」、「セキュリティメディア事業」及び「新規開発事業」の5区分に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、組織変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。